

14. 複式教育論文

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ

互いに学びを深め合う子どもの育成 ～異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの創造～



I 研究の目的	169
1 研究の背景	169
2 研究の方向	169
II 研究内容	170
1 互いに学びを深め合う子どもとは	170
2 異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラム創造の基本的な考え方	171
3 異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの全体構想	172
(1) 指導内容の組合せの工夫	172
(2) 学びを深める「学び方」を発揮する言語活動の重点化	174
(3) 教科外でのかかわりの充実	175
4 複式教育における国語科カリキュラムの具体化	176
(1) 視点1「指導内容の組合せの工夫」から	176
(2) 視点2「学びを深める『学び方』を発揮する言語活動の重点化」から	176
(3) 視点3「教科外でのかかわりの充実」から	177
III 研究の実際	178
1 実践の立場	178
2 第5・6学年複式学級 国語科年間指導計画	178
3 実践結果と考察 第5学年「目的に応じた伝え方を考えよう」第6学年「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」	178
IV 研究の成果と課題	182
1 研究の成果	182
2 研究の課題	182

【学校教育目標】

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成 【校訓】 まことの子・ちからの子・のぞみの子

【目指す子ども像】

(知) 互いの考えに学び合う子ども

(徳) 心と心がひびき合う子ども

(体) 心と体をきたえ合う子ども

【本校の主な教育課題】

確かな学力の面から

○論理的な思考 ○伝え合う方法の習得
○学ぶ喜びや楽しさの実感

豊かな心の面から

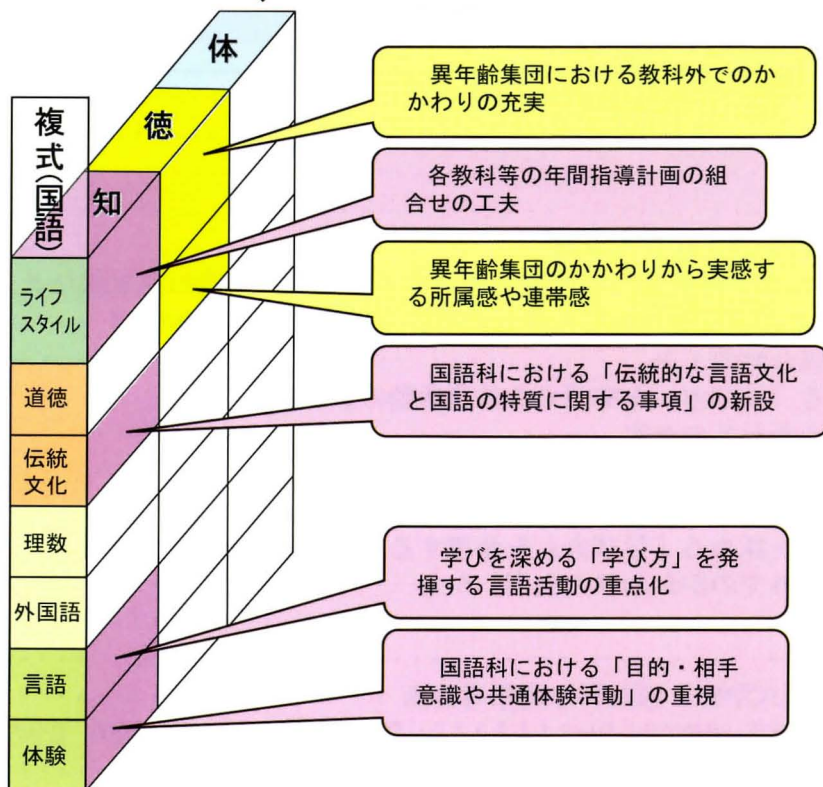
○人間関係(他者意識) ○自己の発揮の仕方
○多様な体験

健やかな体の面から

○基礎体力 ○生活習慣 ○健康・安全

【確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラム】

		確かな学力をはぐくむ観点(知)													豊かな心をはぐくむ観点(徳)				健やかな体をはぐくむ観点(体)			
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	外国活動	総合	特活	複式							
カリキュラム創造の視点	枠組	学校のライフスタイルの見直し																				
	内容	道徳教育の充実																				
		伝統や文化に関する教育の充実																				
		理数教育の充実																				
		外国語教育の充実																				
	方法	言語活動の充実																				
		体験活動の充実																				



I 研究の目的

1 研究の背景

少子化や核家族化が進む今日、県下において複式学級を有する小学校は、全体の約半数に及んでいる。このような中、同一学級内に同学年や異学年の友達がいる異年齢集団の中で学び合い、課題を解決していく能力や態度を培うことは、多くの複式学級を有する本県にあって重要な課題となっている。

その中で昨年度、私たちは、「夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成」という学校教育目標の下、表1の研究

【表1 研究計画】

年次	学び方	異年齢集団	カリキュラム
1年次	学び方の充実	学びの姿の基本的な考え方	総合・特活を中心に
2年次			各教科等を中心に
3年次			
学び方を位置付けた複式新プラン作成			
4年次	新プランの実施，評価，改善		

という学校教育目標の下、表1の研究計画を構想した。1年次となる昨年度は、総合的な学習の時間や特別活動において異年齢集団での学びの深め方について研究を進めてきた。その結果、下学年が上学年の学び方を参考にして活動したり、上学年が下学年に分かりやすく伝えるための工夫をしたりする

などの成果が見られた。2年次となる本年度は、教科等においても異年齢集団の中で互いに学びを深め合う姿が見られるようになることが期待される。

2 研究の方向

「1 研究の背景」を踏まえて学校教育目標を具現化するために、本年度は、本校の複式学級で育成すべき子ども像を設定し、そのためのカリキュラム創造の基本的な考え方について明確にする必要がある。

そこで、学校教育目標・子ども像・カリキュラムの関連を次のように考えた。

複式学級においては、「上学年と下学年の関係がうまくいかない」「子どもの考えが広がりにくい」等、2個学年や少人数という特性に起因した課題が挙げられる。

しかし、見方を変えれば、2個学年や少人数のかかわりがあるからこそ「あのような上学年になりたい」「下級生に分かりやすいように伝えたい」等の思いをもつことができ、それが「夢や目標をもつ」ことにつながる。また、「友達の考えの理由まで聞くことで自分の考えとの共通点に気付いた」「自分や友達の考えには、それぞれよさがある」等の思いは、「共にみがき高め合う」ことにもつながると考えられる。そして、このような互いに学びを深め合う経験が、同学年や異学年の友達との学習や生活のあらゆる場面で生きてはたらく力になっていく。このことから、複式学級では、互いに学びを深め合う子どもを育成することが大切になると考える。そのためには、異年齢集団のかかわりをもたせることのできるカリキュラムを創造する必要がある。

以上のことから、本年度は、次のような研究主題と副題を設定し、研究を進めていくことにした。

互いに学びを深め合う子どもの育成

～異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの創造～

なお、カリキュラムを具体化する際は、今年度は国語科を中心に扱っていく。コミュニケーション能力の育成の核となる国語科を中心に扱うことで、主題の「学びを深め合う」ことや副題の「異年齢集団のかかわり」について、他の教科等のよりどころとなるカリキュラム創造の基本的な考え方を探ることができると考える。

Ⅱ 研究内容

1 互いに学びを深め合う子どもとは

互いに学びを深め合う子どもを次のようにとらえた。

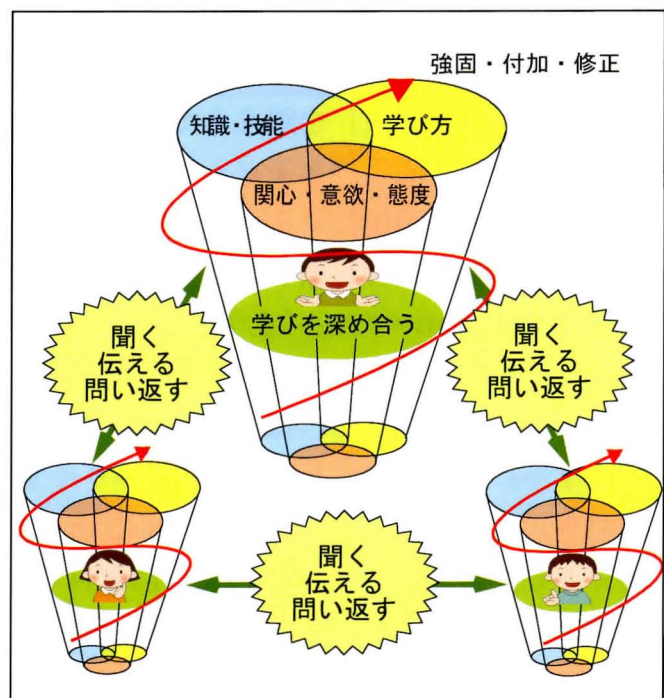
直面した課題を的確に把握し、既習の知識や技能などを駆使しながら自分の考えをもち、自他の考えを聞いたり、伝えたり、問い返したりすることで自分の考えを強固、付加、修正できる子ども

直面した課題を的確に把握し、既習の知識や技能などを駆使しながら自分の考えをもつ子どもは、「この前と同じ方法を使ったらどうか」「答えはこれくらいだと思う」等、解決に向けての方法や結果の見通しをもてる状況と考えられる。また、「ガイド学習でみんなの気付いたことを発表し合いたい」等の複式学級での学習の進め方を適用できる状況と考えられる。つまり、学習の進め方も含め、異年齢集団において必要な既習の知識や技能を身に付けている子どもである。

また、自他の考えを聞いたり、伝えたり、問い返したりできる子どもは、「上級生の考えと自分の考えとの同じところや違うところを聞きたい」「下級生にもっと分かりやすく伝えたい」「下級生がなぜそのように考えたのか質問してみよう」等、その学習のねらいに迫ることができる状況と考える。つまり、異年齢集団において必要な学び方を身に付けている子どもである。

さらに、自分の考えを強固、付加、修正できる子どもは、「やっぱりこの理由から考えができたんだ」「友達の考えも自分の考えに生かせる」「自分の考えをもっとこういうように変えよう」等、学習で得られる充実感を味わったり、「上級生や下級生と一緒に考えられる複式でよかった」「他のことでもみんなと協力しよう」等、複式学級の所属感や連帯感を味わったりできる状況と考える。つまり、異年齢集団において必要な関心・意欲・態度を身に付けている子どもである。

以上のような子どもを育成することは、図1のように、複式教育で培いたい三つの力をバランスよく身に付け、学校教育目標の具現化につながるとともに、今日の社会状況の中でたくましく生きる力をはぐくむことになると考える。



【図1 互いに学びを深め合う子ども】

2 異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの創造の基本的な考え方

互いに学びを深め合う子どもを育成するには、教科等の目標の達成を目指すのはもちろん、同学年や異学年の友達がいるからこそできる、あるいは人数が少ないからこそできる様々なかかわりをもたせることが大切である。そうすることで、「考えの偏りや平板化がみられやすい」等のデメリットを補完したり、「自分たちで学習を進めたり、助け合ったりして活動しやすい」等のメリットをより強固にしたりする学習内容や学習方法が明確になり、それらが互いに学びを深め合うためのかかわりとなり、しいては教科等の目標の達成につながるからである。つまり、2個学年・少人数という複式学級の特性があるからこそできる異年齢集団のかかわりを重視したカリキュラムを考える必要がある。

そこで、複式学級の2個学年・少人数という特性があるからこそできる異年齢集団のかかわりを次のようにとらえ、カリキュラムの創造の視点を見出した。

まず、教師が両学年の指導内容を系統的にとらえることにより両学年の内容を関連付けたり、同内容にまとめたりして年間指導計画を作成することになる。また、2個学年とも年間を見据えた指導をすることができ、そのことが指導と評価の一体化につながる。したがって、2個学年の指導内容の組合せを工夫することで異年齢集団のかかわりを重視するカリキュラムになると考える。

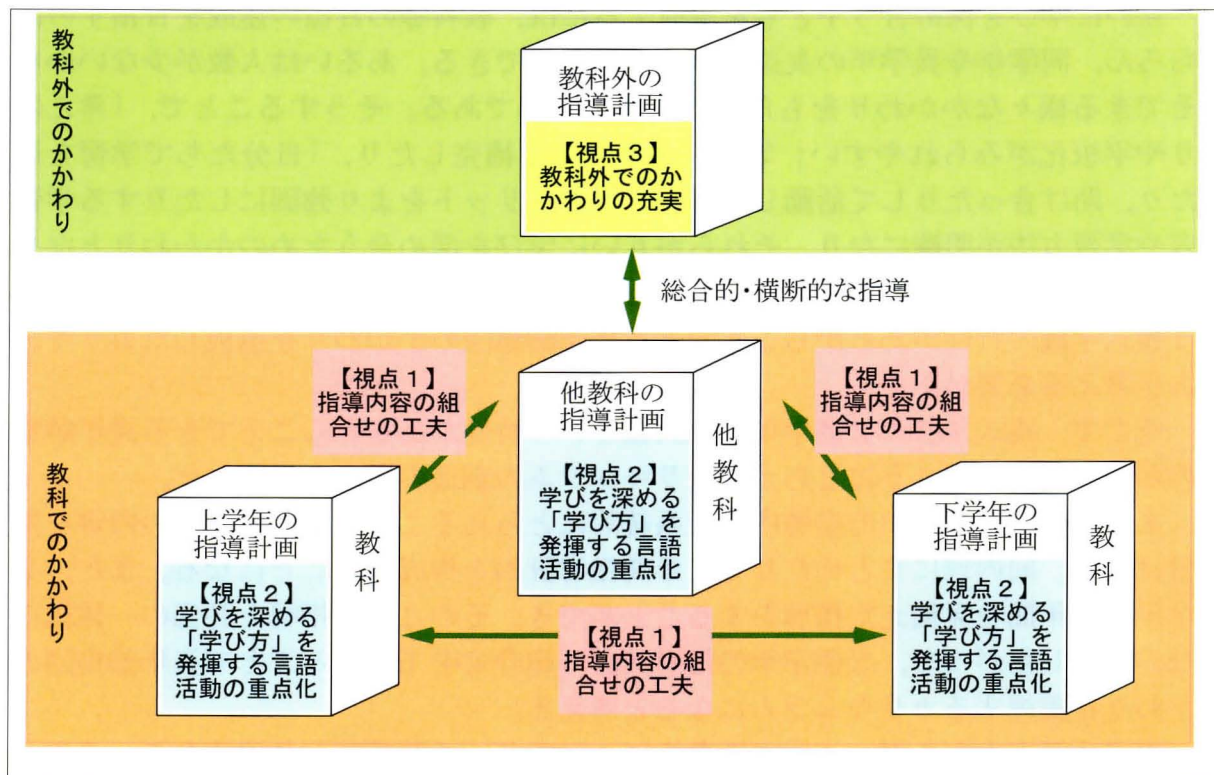
次に、子どもたちが一つ一つの考えについてじっくり吟味しやすくなり、そのことが自他の考えを聞いたり、伝えたり、問い返したりすることになる。また、教師が子どもたちの考えを詳しく把握することができ、そのことが教師のよりきめ細かい働きかけにつながる。その際、教師は、あらかじめ発達の段階等も考慮しながら、どの場面でのどのような話し合いが展開されることが学びを深め合うことになるかをとらえておくことが大切である。そのためには、コミュニケーションの基盤となる学びを深め合う言語活動を重点化する必要がある。ただし、学びの深め方については、これまでの本校の研究で学びを深める「学び方」を発揮することが有効であることが明らかになっている。よってその成果を生かし、今年度は、学びを深める「学び方」を発揮する言語活動を重点化することで異年齢集団のかかわりを重視するカリキュラムになると考える。

さらに、学習や生活の場面で学年を越えて、互いにリードしたり、フォローしたりすることができ、そのことが友達のことをよく知ったり、自分のことをよく知ってもらったりすることになる。また、異学年の友達との学習や生活で学んだことを同学年の友達との学習や生活に生かすことができ、そのことが、相乗効果を生み、学習や生活をよりよいものにすることになる。したがって、教科外でのかかわりも充実させることで異年齢集団のかかわりを重視するカリキュラムになると考える。

以上のことから、カリキュラムの創造の視点を次の3点に設定した。

- 指導内容の組合せの工夫
- 学びを深める「学び方」を発揮する言語活動の重点化
- 教科外でのかかわりの充実

3 異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの全体構想



【図2 異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの全体構想】

異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムを、図2のように構想した。

視点1では、上・下学年、また関連する諸教育活動の指導計画の内容の組合せを工夫して見直しを進めていく。

視点2では、視点1で工夫された指導計画に学びを深める「学び方」が発揮できる言語活動を位置付け、教科の目標に迫ることができるようにする。

視点3では、教科外のかかわりの充実を目指し、教科での学習が教科外の学習に広がったり、教科外の学習が教科での学習に広がったりするようにする。

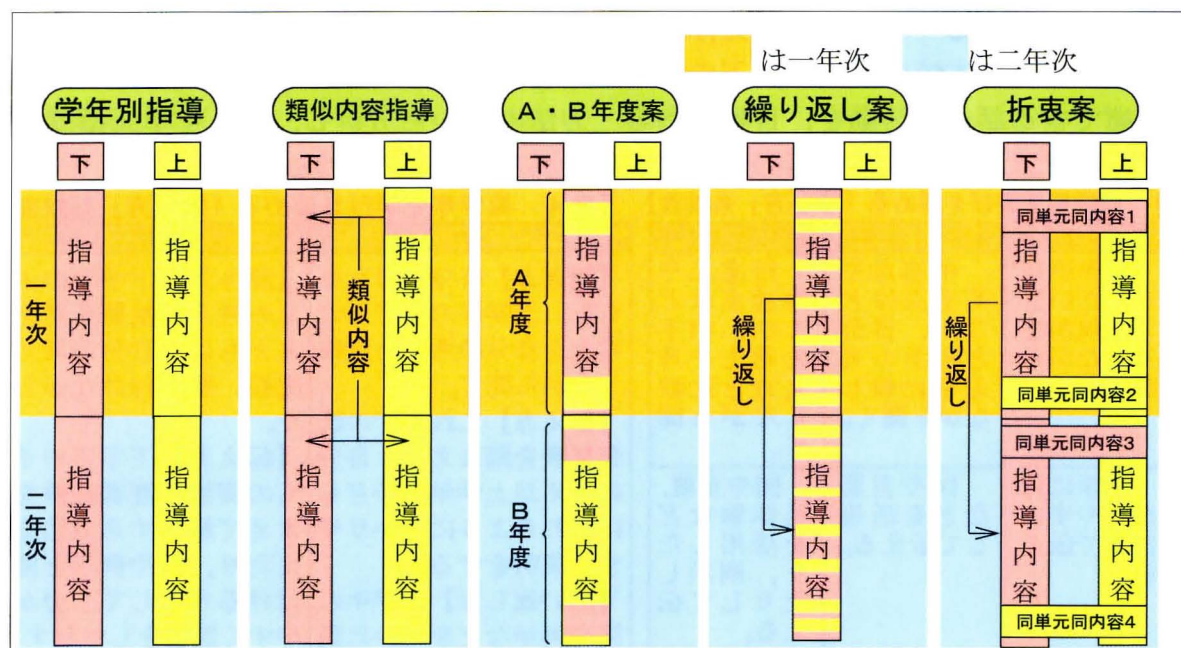
このように、三つの視点を生かして、複式学級での教育活動を総合的・横断的に指導することで、異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの運用につながると考える。

なお、それぞれの視点の基本的な考え方は次の通りである。

(1) 指導内容の組合せの工夫

複式学級で指導内容の組合せを考える際、各学年の指導内容の系統性、順序性、共通性、差異性、適時性、発展性、他教科等の関連等、様々な観点からの組合せが考えられる。しかし、いずれの観点の組合せは全て、教科等の目標を達成するための組合せであることが前提であり、そうすることで全体としての子どもの学びがバランスよく高まり、確かな学力をはぐくむことができると考える。したがって、指導内容の組合せを考える際は、学年ごとの目標を踏まえた上で、その内容や方法を具体化することが大切である。そうすることで、様々な観点での指導内容の組合せが教科等の目標と結び付いたものになっていく。

以上のことから、図3の基本的な指導内容の組合せ例をもとにして、カリキュラムを具体化していく。その際、表2の特長と留意点を考慮することが必要である。



【図3 基本的な指導内容の組合せ例】

【表2 各指導類型の概要】

学年別指導	教科の系統を踏まえ、上・下学年にそれぞれの学習内容を指導する計画。
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年の系統に応じた指導をしやすい。 ・ 導入や終末等を工夫して、一方の学年に指導が偏らないように配慮する必要がある。
類似内容指導	系統性の強い教科において、同じ領域等で組み合わせ、両学年に共通目標と類似内容をもたせて同一の単元を構成する計画。
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年別指導より直接指導の機会が多く設定でき、個に応じた指導が充実しやすい。 ・ 類似内容を判断する際、目標を踏まえた指導計画作成に配慮する必要がある。
A・B年度案	両学年分の内容を、A・B年度に分配し、両学年の子どもに同内容を同程度で指導しようとする計画。
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接指導で展開できるので、観察、実験、調査等の学習活動を設定しやすい。 ・ 2年間を見据えて系統的、累積的な内容の指導がなされるように特に配慮する必要がある。
繰り返し案	2個学年の内容から編成した同一単元を2年繰り返し学習し、2年間で各学年の目標を達成する計画。
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間を見据えて子どもの学習や生活経験の違いに対応した指導計画を作成しやすい。 ・ 同一教材を2年間にわたり指導するので、教材を精選する必要がある。
折衷案	類似内容指導とA・B年度のよさを融合したもので、同単元同内容を位置付けて、それをA・B年度で行う計画。
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間を見据えて同単元同内容段階的に計画でき、指導計画に反映させやすい。 ・ 2年間にわたり同内容についての子どもの興味・関心が高まるように配慮する必要がある。

(2) 学びを深める「学び方」を発揮する言語活動の重点化

これまでの本校の研究で、下の表3・4をもとにして学びを深める「学び方」が発揮できる話し合い活動を、目標・内容・方法の面から分析し、それを単元指導計画に位置付けることが子どもの学びに有効であることが明らかになっている。

【表3 同学年で学びを深める「学び方」系統表】

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
聞き方	相手の知らせたいことは何かを考えながら聞く。	相違点や共通点はどこか、自分と相手の考えを比較しながら聞く。	相違点や共通点はどこか、相手の考えや考え方と比較しながら聞く。			
伝え方	相手に分かりやすい言葉で伝える。	図や言葉などを活用して伝える。	図や言葉、具体物などを活用したり、例示したりして伝える。			
問い返し方	分からないところを問い返す。	考えの分からないところを問い返す。	考えや考え方の分からないところを問い返す。			

【表4 異学年で学びを深める「学び方」系統表】

下学年	上 学 年
【聞き方】自分の考えをもち、上学年の子どもの考えを自分の考えと比較しながら聞く。 【伝え方】これまでの既習経験を踏まえて、自分の考えが上学年の子どもに伝わるように分かりやすく説明をする。 【問い返し方】上学年の図や例示などを用いた説明で、分からないところを問い返す。	【聞き方】下学年の子どもの考えの根拠を考えるとともに、自分の考えと比較、関係付けながら聞く。 【伝え方】下学年の子どもの実態や既習経験を踏まえて解決する方法を教えたり、図や例示と関係付けるなどして、分かりやすく説明をしたりする。 【問い返し方】下学年の子どもの説明で不十分なことを問い返す。

例えば、単元指導計画で、第1時を同学年との学習、第2時を異学年との学習としてどちらの時間とも学びを深める「学び方」が位置付けられたとした場合、学びを深める「学び方」を同学年の友達との話し合い活動でも発揮し、異学年の友達との話し合い活動でも発揮することが望ましいことになる。その際、二つの学びを深める「学び方」の関連を考えることで、その場面で必要な発揮のさせ方が明確になる。なぜなら、その場面同士を連続的・発展的にとらえることになるからである。そのことで、「上級生から教えてもらったことが、自分たちの学習で役立った」「今度は、自分たちの考えを上級生に聞いてもらいたい」など、同学年・異学年の友達との学習が相乗効果を生むことになり、しいては教科の目標につながるようになる。

そこで、異年齢集団において互いに学びを深め合うために、これまでの研究の成果である表3・4などをもとに、学びを深める「学び方」が発揮される言語活動例を発達の段階ごとに重点化し、教科の特性を加味しながら充実を図るようにした。

【表5 学びを深める「学び方」を発揮する言語活動の重点化】

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
聞き方	・ メモ		
伝え方	・ 事物の説明 ・ 経験の報告 ・ あいさつ ・ 連絡 ・ 紹介 ・ 報告する文章 ・ 説明する文章 ・ 簡単な手紙	・ 出来事の説明 ・ 調査の報告 ・ 調べて報告する文章 ・ 説明する文章 ・ 目的に合わせた手紙	・ 資料を提示しながらの説明 ・ 資料を提示しながらの報告 ・ 推薦 ・ 意見を記述した文章 ・ 活動を報告した文章 ・ 編集 ・ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章
問い返し方	・ 感想 ・ 応答	・ 意見 ・ 読み取ったことを基にした話し方、聞き方	・ 助言、提案
全て	・ グループでの話し合い	・ 学級全体での話し合い	・ 討論

(3) 教科外でのかかわりの充実

異年齢集団のかかわりは、教科外の諸教育活動においても多様に考えられる。しかし、単にそのかかわりが多いからといって、必ずしも充実するとは限らない。なぜなら、それぞれのかかわりには、ねらいがあり、そのねらいを達成するためのかかわりでないと意味をなさなくなり、他の教育活動とも関連し合わないからである。また、「下学年の友達と一緒に活動してみたい」「上学年の友達に聞いてみたい」など、子どもの切望感や必要感を抱かせたり、「上級生と一緒に勉強できる複式でよかった」といった所属感を味わわせたりすることも大切である。さらに、2個学年の発達の段階や学習の理解に合わせ、補充的、発展的な活動内容を設定することも考えられる。以上を踏まえて、本校では、表6のかかわりを中心にして、教科外のかかわりの充実を目指している。

【表6 教科外でのかかわりのねらいと様相】

諸教育活動		ねらいと様相		
朝の活動				
		【ボランティア】	【読書タイム】	【係活動】
主なねらい	上学年	・ボランティアへの意識の向上 ・下級生への接し方の向上	・読書への親しみ ・下級生への伝え方の向上	・自分の役割の自覚、実践 ・下級生への接し方の向上
	下学年	・ボランティアへの意識の向上 ・上級生への接し方の向上	・読書への親しみ ・上級生への接し方の向上	・自分の役割の自覚、実践 ・上級生への接し方の向上
交流給食				
		【会食】		【感想交流会】
主なねらい	上学年	・食への意識化、実践化の向上 ・下級生への接し方の向上		・食への意識化、実践化の向上
	下学年	・食への意識化、実践化の向上 ・上級生への接し方の向上		・食への意識化、実践化の向上
グリーンタイム				
		【1年生を迎える会】	【複式仲良し大作戦】	【6年生を送る会】
主なねらい	上学年	・下級生への受容的な理解 ・下級生への接し方の向上	・複式への親しみ ・下級生への受容的な理解	・学校、複式への感謝 ・下級生への感謝
	下学年	・学校への親しみ ・上級生への接し方の向上	・複式への親しみ ・上級生との積極的な協力	・6年生への感謝 ・上級生との積極的な協力
学校行事				
		【運動会】		【音楽発表会】
主なねらい	上学年	・これまでの学習の発表 ・下級生への接し方の向上		・音楽への親しみ ・下級生への受容的な理解
	下学年	・これまでの学習の発表 ・上級生との積極的な協力		・音楽への親しみ ・上級生へのあこがれ

4 複式教育における国語科カリキュラムの具体化

異年齢集団のかかわりを重視した国語科カリキュラムを、171 ページのカリキュラム創造の三つの視点を基に考えた。

複式カリキュラム創造の視点	複式教育における国語科カリキュラム創造でのとらえ
視点1 指導内容の組合せの工夫	国語科の内容は、3つの領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で構成されている。また、国語科の目標と内容は2学年共通で示されており、児童の実態等に応じて柔軟に学習内容を組み換えることができる。 以上のような国語科の特性や他教科等と国語科との関連を踏まえて、複式学級における国語科の年間指導計画を作成する。
視点2 学びを深める「学び方」を発揮する言語活動の重点化	新学習指導要領で例示された言語活動例を基に、「2個学年」「少人数」という複式学級の特性を生かせる同学年間や異学年間の交流活動を考えることで、学びを深める「学び方」が発揮できる場面を意図的に設定することができる。と考える。
視点3 教科外でのかかわりの充実	国語科の授業以外の教育活動全体で、「2個学年」「少人数」という複式学級の特性を生かした、同学年間や異学年間の交流場면을積極的に設ける。 その際、国語科の特性や活動の目的などを加味したり、学習内容や児童の実態に応じたりして、意味のある交流場面を設定する。

(1) 視点1「指導内容の組合せの工夫」から

国語科の各領域や単元の種類や特性を考えて指導内容を組み合わせることで、異年齢集団のかかわりを重視した年間指導計画を編成する。

組み合わせ例	領域、単元の種類	領域、単元の特性	年間指導計画を編成する際の手順、留意点
同単元同内容 ↓ A・B年度案	話すこと・聞くこと	・ コミュニケーション能力をはぐくむ上で特に土台となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年を通じて螺旋的・反復的に学習することで、より知識・技能・理解を高められるようにしたり、より親しめるようにしたりする。 ・ 学習経験の違う大きな集団で学んだ方が、考えが広がりやすく、高まりが見られやすい。
	書くこと	・ 2学年まとめた目標や内容であるが、説明的文章ほど学習内容に系統がない。	
	読むこと (文学的文章)	・ 伝統的な言語文化に親しむことを目的としている。 ・ 2学年まとめた内容で示されている。	
異内容 ↓ 学年別指導	伝統的な言語文化に関する事項	・ 2学年まとめた目標や内容であるが、学習内容に系統がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容を一元化し、異学年同士がかかわれる場面をより多く設けられるようにする。 ・ 特に、入門期の段階の学習での充実をさせたい。(言葉の特徴やきまりに関する事項) ・ より確実な定着を図るために、上の学年に配当されている漢字や学年別に配当されている漢字以外の常用漢字の読みの指導を積極的に行う。(文字に関する事項)
	読むこと (説明的文章)	・ 学習内容に系統がある。	
	言葉の特徴やきまりに関する事項	・ 学年別の配当漢字がある。	

以上のことを踏まえ、異年齢集団のかかわりを重視した国語科の年間指導計画を作成すると 177 ページの表7 のようになる。なお、基本的には2個学年の単式学級の指導計画を合わせて作成するが、異学年間でもかかわることができる場面をより多く設定できるようにするために単元を入れ換える。

(2) 視点2「学びを深める『学び方』を発揮する言語活動の重点化」から

国語科の授業において、「2個学年」「少人数」という複式学級の特性を生かし、異年齢集団のかかわりを重視した授業づくりが大切である。

そこで、授業単元の指導計画を立てる際、以下の点に留意したいと考える。

単元の段階	異年齢集団のかかわりを重視した授業づくりの際の留意点
つかむ	課題をしっかりと把握し、自分なりに課題解決のための目標や方法を考え、学習意欲をもつ。その際、同学年間や異学年間で話し合い、母体数を増やした話し合いをしたり、生活経験が違う集団で話し合いをしたりすることで、より強い関心や課題意識をもつことができるようにする。
みとおす	課題解決に向けての言語活動、着目する言葉、表現のための観点、読みの視点などの活動の見通しについて、下学年は上学年にアドバイスをもらうことで、自分の考えをより明確にし、高めることができるようにする。また、上学年は下学年に説明することで自分の考えをより強固なものにさせる。
しらべる	自分なりの言葉に対する見方・考え方・感じ方を生かして、課題解決を図ることできるようにする。その際、下の学年は上の学年から助言をもらう活動の場面を、上の学年は下の学年に自分の考えを分かりやすく説明する活動の場面を意図的に盛り込むことで、より高次での課題解決を図ることができるようにする。
ふかめる	学び合いにおいて、自分の思考の過程や相違点・共通点について話し合うことで、個々の考え方の違いに気付く。その際、同学年同士や異学年同士で積極的にのかかわれる言語活動を積極的に取り入れる。 (例) 異学年合同の音読発表会を行って、登場人物の行動について、児童の発達の段階に応じた想像を広げた読み取り方の違いを比べさせる。
ふりかえる、いかす	学習を通して、自分の見方・考え方・感じ方がどのように変わったのかということと、なぜ変わったのか変化の過程を振り返る評価活動を行う。その際、自己評価だけでなく、同学年や異学年からの評価も加味させた相互評価を行うことで、これまでの学習を多角的に振り返ることができる。

【表7 異年齢集団のかかわりを重視した国語科の年間指導計画】

単式学級指導計画

第5学年		
月	単元名	教材名
5	2 要旨をとらえよう	サクラソウとトラマルハナバチ
		晴間/海雀/雪
	3 調べたことを整理して書こう	言葉の研究レポート
6		仮名づかいの決まり
		インタビュー名人になろう
		漢字の広場①
7	4 読書の世界を広げよう	千年の釘にいだむ
		本は友達

第6学年		
月	単元名	教材名
5		今も昔も 狂言
		短歌と俳句の世界
		暮らしの中の言葉
6	3 相手や目的に合わせて書こう	ガイドブックを作ろう
		よりよい文章に
		学級討論会をしよう
7	4 読書の世界を広げよう	森へ
		本は友達

複式学級指導計画

第5学年（A年度）			第6学年（B年度）		
単元名	教材名	月	単元名	教材名	
	晴間/海雀/雪			暮らしの中の言葉	
2 要旨をとらえよう	サクラソウとトラマルハナバチ		2 文章を読んで、自分の考えをもとう	生き物はつながりの中に	
	漢字の広場①	5		漢字の広場①	
3 調べたことを整理して書こう	言葉の研究レポート		3 相手や目的に合わせて書こう	ガイドブックを作ろう	
	仮名づかいの決まり			よりよい文章に	
	インタビュー名人になろう			学級討論会をしよう	
	漢字の広場②	6		漢字の広場②	
	千年の釘にいだむ	7	4 読書の世界を広げよう	森へ	
	本は友達			本は友達	

- 説明的文章を学年別指導で行うために、単元を入れ換える。
- 文字に関する事項を学年別指導で行うために、単元を入れ換える。
- 子どもの実態や教科の目標を達成させるために学習形態を変える場合、単元を入れ換える。

(3) 視点3「教科外でのかかわりの充実」から

諸教育活動	ねらい	具体的な活動内容
言語活動 (各教科等)	国語科以外の授業においても、学びを深める「学び方」を意識して、進んで言語活動に取り組むことができるようにする。	異年齢集団におけるかかわりの場面を意識的に盛り込んだ活動を積極的に設定する。 (例) 家庭科でミシンの使い方を調べる際、同学年だけでなく異学年と一緒に活動を行い、上学年からアドバイスをもらう(写真1)。
朝の会 (朝の活動)	聞き方・伝え方・問い返し方を意識し、日常生活の中でも学びを深める「学び方」をより発揮できるようにする。	1分間スピーチの発表を朝の会を毎日輪番で行う。その際、発表だけでなく質問の時間も設けることで、学びを深める「学び方」を発揮できるようにする(写真2)。
読書タイム (朝の活動)	読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めることができるようにする。	毎週木曜日の朝の活動の時間に行う。その際、一人読みだけでなく、おすすめ図書の紹介を行ったり、グループ単位で取り組むアニメーションを行ったりする活動の中で、学びを深める「学び方」が発揮できる場面を積極的に設定する(写真3)。
ことばの時間 (朝の活動)	言語の広がり、深まりを感じさせ、言葉に対する興味・関心を高めることができるようにする。	「あいいうえお作文」作り等のゲーム性の強い活動を行う。その際、多様な考え方に触れられるように、異年齢集団での意見交換の場を設定する。



【写真1 他教科でのかかわり】



【写真2 朝の会の様子】



【写真3 読書タイムの様子】

Ⅲ 研究の実際

1 実践の立場

互いに学びを深め合う子どもを育成するために、国語科の授業において、二つの視点を設定して検証を行った。その際、以下の場面と方法で検証した。

検証の視点 ----- 検証の視点の具体	検証する場面	検証方法
検証の視点 1 「学びを深める『学び方』を発揮する言語活動の効果的な設定」 同学年同士や異学年同士がかかわる場面において、学びを深める「学び方」が発揮できる言語活動を効果的に設定することで、教科の目標達成ができたか。	単元の学習内容を考える場面で	○ 「ふりかえりカード」からの見取り（自己評価、相互評価）
検証の視点 2 「学びを深める『学び方』を発揮する交流場面の効果的な設定」 国語科における交流に関する指導事項等を盛り込んだ指導を行い、同学年同士や異学年同士がかかわる場면을積極的に設定することで、教科の目標達成ができたか。	一単位時間の学習内容を考える場面で	○ 授業の様子から（教師による評価）

2 第5・6学年複式学級 国語科年間指導計画

※ 179ページ表8参照

3 実践結果と考察

(1) 単元名

第5学年「目的に応じた伝え方を考えよう」

（教材「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」光村5年下）

第6学年「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」

（教材「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」光村6年下）

(2) 単元の目標（一部抜粋）

第5学年	第6学年
○ 番組作りの大切な点を的確におさえながら、自分たちが番組を作るために必要な事柄を読み取る。	○ 筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつ。
○ 編集作業を通して、集めた材料を目的に合わせて整理し、加工して伝える。	
○ <u>放送原稿を発表し合い、相手に伝えるために効果的な表現の仕方に着目して助言する。【書くこと】</u>	○ <u>「平和」についてさらに考えるために調べ、深まった考えを分かりやすく構成して書いて交流する。【書くこと】</u>

なお、上の表の波線は交流に関する指導事項に関する目標を示す。目標を設定する際、「学びを深める『学び方』」と関連付けた。

また、本単元では異年齢集団のかかわりから共に学び合うことができる言語活動を、以下のように設定した。

第5学年の言語活動	第6学年の言語活動
ビデオニュースの原稿・編集	平和についての意見文

本単元では、同学年だけでなく異学年とのかかわりから共に学び合うことができる場面を設定したいと考えた。そこで、単元の間や終末で行う発表会という形での感想や意見の交流だけでなく、学習計画を立てたり課題解決したりする場面での交流を重視した単元構成で学習する。

【表 8 第 5・6 学年複式学級 国語科年間指導計画】

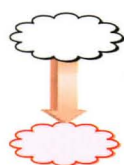
月	第 5 学年（A 年度）		第 6 学年（B 年度）	
	単元名	教材名	単元名	教材名
前 期		続けてみよう		続けてみよう
	1 本に親しみ、人間を見つめよう	新しい友達	1 本に親しみ、自分と対話しよう	カレーライス
		漢字の成り立ち		漢字の形と音・意味
		お願いの手紙、お礼の手紙		短歌と俳句の世界
		敬語		暮らしの中の言葉
		晴間/海雀/雪		今も昔も 狂言
	2 要旨をとらえよう	サクラソウとトラマルハナバチ	2 文章を読んで、自分の考えをもとう	生き物はつながりの中に
		漢字の広場①		漢字の広場①
	3 調べたことを整理して書こう	言葉の研究レポート	3 相手や目的に合わせて書こう	ガイドブックを作ろう
		仮名づかいの決まり		よりよい文章に
		インタビュー名人になろう		学級討論会をしよう
		漢字の広場②		漢字の広場②
	4 読書の世界を広げよう	千年の釘にいどむ	4 読書の世界を広げよう	森へ
		本は友達		本は友達
		未確認飛行物体		船/りんご
		カンジー博士の暗号解読		同じ訓をもつ漢字
		漢字の広場③		漢字の広場③
後 期	5 伝え合って考えよう	人と「もの」とのつき合い方	5 共に考えるために伝えよう	みんなで生きる町
		和語・漢語・外来語		日本で使う文字
	1 人物の考え方や生き方をとらえよう	わらぐつの中の神様	1 表現を味わい、豊かに想像しよう	やまなし
		方言と共通語		イーハトーヴの夢
		漢字の広場④		漢字の広場④
		言葉の組立て		熟語の成り立ち
	2 目的に応じた伝え方を考えよう	ニュース番組作りの現場から	2 筆者の考えを受け止め自分の考えを伝えよう	平和のとりでを築く
		工夫して発信しよう		自分の考えを発信しよう
		編集して伝える		インターネットと学習
		ねぎぼうず/ケムシ・一/耳/蝶		
		漢字の広場⑤		漢字の広場⑤
		漢字の読み方と使い方		覚えておきたい言葉
		「失敗」をめぐる		今、わたしは、ぼくは
		物語を作ろう		感動を言葉に
	3 言葉って、おもしろいな	どんなとき、だれに	3 言葉って、おもしろいな	わたしたちの言葉
		言葉や表現のちがいがから		
		漢字の広場⑥		漢字の広場⑥
		同じ読み方の熟語		カンジー博士の漢字クイズ大会
	学習したことを生かして	大造じいさんとガン	学習したことを生かして	海の命
				今、君たちに伝えたいこと
				生きる

… 説明的文章を学年別指導で行うために、単元を入れ換えた。

… 文字に関する事項を学年別指導で行うために、単元を入れ換えた。

… 子どもの実態や教科の目標を達成させるために指導形態を変え、単元を入れ換えた。

(3) 授業の実際（全 14 時間）



… 交流によって変わった児童の思いや考えなど




… 学びを深める『学び方』を発揮する交流場面



… 6年生からのかかわり



… 5年生からのかかわり

学習過程	第 5 学年	第 6 学年
つかむ・みとおす②	<p>1 学習への意欲の喚起と学習問題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 初発の感想 <p>「複Ⅲニュース」をつくって、複式学級の人みんなに観てもらおう。</p> <p>話し合いの途中に「アドバイスタイム」を設け、それぞれの学年が立てためあてについて意見を出し合う。</p> <p>※ 5年生が単元のためあてを立てる際</p> <p>ニュース番組をつくってみたい。でも、自分たちに作れるのか不安だな。</p>  <p>6年生のアドバイスで、作り方が分かってきた。自分たちにも作れそうだな。</p> <p>付加・修正</p> <p>【6年生からのかかわり】</p> <p>去年、ぼくたちはニュース番組づくりをしたよ。みんなで分担して、原稿を書いてから、撮影したよ。</p> <p>前年度の学習との比較</p> <p>私たちはそれぞれの仕事の内容が分かるように、全員がアナウンサーをしたり、撮影をしたりしたよ。</p> <p>【振り返りカードから（5年生）】</p> <p>ニュース番組作りの楽しさや作り方について、6年生が去年のことを思い出しながらかんさんアドバイスしてくれた。</p>	<p>1 学習への意欲の喚起と学習問題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 初発の感想 <p>「平和」についての自分の考えを複式学級の人みんなに発表しよう。</p> <p>平和についての意見文を書いてみたけど、自分の考えが相手に伝わるか、不安だな。</p>  <p>どうすれば、もっと相手に自分の考えが伝わりやすい意見文を書くことができるか、教材文を読み取りながらかえていこう。</p> <p>付加・修正</p> <p>【5年生からのかかわり】</p> <p>どうして平和がいいのか、詳しく知りたいです</p> <p>同じ学級の友達として</p> <p>話が長くて、分かりにくいです。</p> <p>平和の大切さは分かるけど、○○さんらしさが出ていないです。</p> <p>【振り返りカードから（6年生）】</p> <p>△△君が、「長くて分かりにくい。」と、はっきり言ってくれたので短くまとめようと思った。</p>
	<p>2 放送原稿の書き方の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ニュース番組作りの現場から」の読み取り ①形式段落、②要点、③意味段落、④文章構成、⑤要旨→思いや願いの明確化⑥ 要約 →ニュース番組づくりの流れ <p>それぞれの教材を使って調べる際、「アドバイスタイム」を設け、積極的に異年齢集団の話し合いを行い、意見を出し合う。</p> <p>どちらの説明文も、「問題提起－説明－筆者の主張」の構成だね。</p> <p>知識・技能の高まり</p>	<p>2 筆者の考えの読み取りと意見文の書き方の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「平和のとりでを築く」の読み取り ①形式段落、②要点、③意味段落、④文章構成、⑤要旨 → 筆者の考え⑥自分の考え→ おおまかな自分の考え

しらすべる⑤

ふかめる⑤ いかす①	<p>3 放送原稿の作成の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識, 目的意識を明確にした放送原稿の作成 	<p>3 意見文の作成の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の考えを受け止め, 自分の考えをまとめた意見文作成
	<p>4 放送原稿の作成②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを生かした原稿作成 	<p>4 意見文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「平和」について自分の考えをまとめた意見文の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平和」についての取材, 考察
	<p>5 中間発表会</p>	<p>5 中間発表会</p>
	<div data-bbox="263 414 1380 470" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 年生は放送原稿を, 6 年生は意見文の下書きを発表し合い, よりよいものにするために意見を出し合う。発表できなかったことは, 付箋に書いて渡す。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>作成した原稿を基に, どのように撮影すればいいのかな。</p> <p>【同学年や異学年の友達とのかかわり】</p>  <p>同じ学級の友達として</p> <p>考えを書いたフリップを使えば, より伝えたいことが伝わるかな。</p>  </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">付加・修正</div> <div style="width: 45%;"> <p>自分が書いた意見文で, 自分の考えが下級生に伝わるかな。</p>  <p>インタビューするときには, 自分の名前とインタビューの目的をきちんと伝えました。</p> <p>前年度の学習との比較</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>実際にインタビューするのはすごい! 話しかけるときは, なぜインタビューするかを言ったらいいね。ありがとうございました! ありがとう!</p> </div> <p>難しい言葉が多いです。「戦争」を低学年にどう伝えるのですか。</p> <p>下級生の代表として</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">付加・修正</div> <div style="width: 45%;"> <p>同じ学級の友達として</p> <p>「このように」という接続詞を入れてつなげた方が, 自分の考えを伝えやすいと思います。</p>  <p>もと自分の考えをくわしくすればいいと思う。</p> <p>同じ学級の友達として</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>昨年学習した 6 年生の意見を取り入れながら, 自分たちで考えて撮影するとより伝わりやすいニュース番組が作れそうだ。</p> <p>知識・技能の高まり</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>同じ学年で考えるだけでなく, 伝える相手である下級生に意見をもらうことで, 自分たちでは気付きにくいところに気付くことができました。</p> <p>学び方の高まり</p> </div> </div>	
	<p>【振り返りカードから (5 年生)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○さんにインタビューの仕方を, くわしく教えてもらって, 勉強になった。 ・ 6 年生にアドバイスを言ったら, 「いいアドバイスだね。」と言われてうれしかった。 	<p>【振り返りカードから (6 年生)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう一度自分の意見文を読んで, 下級生にとって難しい言葉はないか考えてみたい。 ・ 5 年生が相手をうなずかせるアドバイスをしていたすごいと思った。
	<p>6 発表の準備②</p> <p>(原稿の修正, 原稿読みの練習, 撮影)</p>	<p>6 発表の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表補助資料(写真, 図など)準備(原稿読みの練習, 撮影)
	<div data-bbox="263 1803 1380 1859" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>それぞれの発表の準備を進める際, 積極的に異年齢集団の話し合いを行い, 意見を出し合う。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>5 年生が発表にフリップを使っていた。自分たちも, より自分の考えが伝わりやすいように使ってみよう。</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">知識・技能の高まり</p>	
	<p>7 発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式 I, II 組への発表 ・ 振り返り 	<p>7 発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式 I, II 組への発表 ・ 振り返り

(4) 実践の結果と考察

ア 検証の視点1から

- 5年生の学習で、6年生にとって既習の言語活動を取り上げたことで、6年生は自分たちがした学習と比較した「聞き方」ができ、体験を基にした効果的な質問や意見を5年生に述べ、考えを高めることができた。
- 6年生の意見文を聞く際、5年生は下級生の代表として分からないところの「問い返し方」ができ、自分の意見と比較した質問や意見を6年生に述べることができた。

イ 検証の視点2から

- 一単位時間の最後に、学びを深める「学び方」を基に学習をふりかえる時間を設定したことで、次のような結果が得られた。
 - ・ 同学年間や異学年間のかかわりが増えたことで、自分の学び方を振り返ることができる機会が増え、次回の自分の学び方に生かそうとする子どもの姿が見られた。
 - ・ 教材が異なる2つの説明文をそれぞれの学年で取り上げ、異学年間のかかわりの中で比較しながら学習することで、一般的な説明文の構成が分かりやすくなり、読み取り方を理解しやすくなった。
- 一単位時間の途中に「アドバイスタイム」を設けることで、より多くの意見を基に自分の考えを強固・修正・付加することができた。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 複式学級で目指す子ども像を設定し、その具現化に向けて、複式教育カリキュラム創造の視点を明らかにできた。
- 異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの基本的な考え方を明らかにできた。
- 複式学級の国語科年間指導計画を作成することができた。

2 研究の課題

- 国語科以外の他教科等においても異年齢集団のかかわりを重視した複式教育カリキュラムの具体化を進める必要がある。
- 互いに学びを深め合う子どもを育成する指導方法についての研究を進める必要がある。

【主な参考文献】

- | | | |
|-----------------------------|---------|--------|
| ○文部科学省「小学校学習指導要領」 | (東洋館出版社 | 平成20年) |
| ○文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」 | (東洋館出版社 | 平成20年) |
| ○文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」 | (東洋館出版社 | 平成20年) |
| ○小森茂 編著「新小学校国語科重点指導事項の実践開発」 | (明治図書 | 平成22年) |
| ○大熊徹 編著「『活用型』学習の授業モデル」 | (明治図書 | 平成20年) |
| ○高木展郎 編著「国語科の指導計画と授業づくり」 | (明治図書 | 平成20年) |